

キリスト教はなぜ 生まれたのか

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/4/7

スプリング礼拝

そもそもの起源

- 創造主(主なる神)がユダヤ人の祖先となったアブラハムに呼びかけた
 - 「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。」創世記12:1
- アブラハムはこの呼びかけに答え、「行き先を知らないで」妻と共にでかけた
 - 行き着いた先がパレスチナ(約束の地)であった
 - アブラハムはその地で子どもを授かった
- 彼の孫の代(ヤコブ)に飢饉が起こり、一族はエジプトに移住した



「律法」を授かる

- モーセに率いられてエジプトを脱出する
 - エジプトで奴隷のようにこき使われていた
- パレスチナに戻る前にシナイ半島（荒れ野）を40年間さまよった
 - 主なる神に信頼する訓練
- パレスチナに入る前に、主なる神との約束である「**律法**」が与えられた
 - これを守れば「約束の地」に住み続けられるが破れば追われる
 - 「ユダヤ教」の誕生



「律法」を授かる

- モーセに率いられてエジプトを脱出する
 - エジプトで奴隷のようにこき使われていた
- パレスチナに戻る前にシナイ山を40年間さまよった
 - 主なる神に信頼する訓練
- パレスチナに入る前に、主なる神との約束である「**律法**」が与えられた
 - これを守れば「約束の地」に住み続けられるが破れば追われる
 - 「ユダヤ教」の誕生

現世での御利益
(ごりやく) 信仰



律法を破り国を追われる

- パレスチナ入国後、ユダヤ人たちは律法を軽視し最初の戒めすら守らなかった
 - 「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。」(十戒の第一戒)
 - **ダビデ王**は主なる神に忠実で国は繁栄した
- パレスチナ入国後800年後に国を追われ、バビロンに捕囚となった
 - 本来なら滅ぼされるべきところ、主なる神の憐れみによって保たれ、70年後に帰国した
- 帰国後は律法を重んじて暮らし始めた

国家存亡の危機

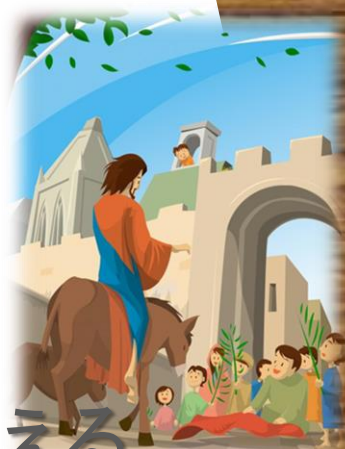
- **ギリシャの支配に立ち向かったマカベヤ家**
 - アンティオコス・エピファネスが神殿を汚す
 - マカベヤ一家がゲリラ戦を展開し独立を勝ち取る
- **ローマ帝国の属国となる**
 - 自国の支配も認められるが…(満州国のよう)
 - 人々は解放を願って律法を守り、ダビデ王のような**メシア**の出現を願っていた
- **そのような状況下でイエスは誕生した**
 - パレスチナ北部の田舎町で大工の子として
 - 30歳の時、家を出て教え始める

イエスへのメシアの期待

- 聞いたこともない教え＜律法を超える！＞
 - 「右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。」
 - 「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」 “**律法を完成するために来た**”
- 驚くべき奇跡の数々
 - 中風を立たせ、耳を開き、目を開け、死者をよみがえらせ、五千人のお腹を満たし…
- 一方で「罪人」の友となる
 - 律法を破って生活していた人々の友となり、指導者たちから非難された

あっという間に殺される

- 人気絶頂で聖都エルサレムに入る
 - 人々は「ダビデの子にホサナ」と叫んで迎える
- 指導者たちはイエスへのねたみを燃え上がらせ、殺そうと謀る
 - 弟子の一人イスカリオテのユダを巻き込み、イエスを捕らえ、反逆者として訴えた
- 指導者たちは敵であるはずのローマ総督ピラトにイエスを引き渡した
 - ピラトはイエスを死刑にしたくなかったが、指導者たちが扇動して「十字架につけろ！」と叫んだ



望みを絶たれた弟子たち



- 最終的にピラトが折れ、イエスを十字架につけて殺した
 - イエスは一切抵抗せず、死に向かった
- イエスの死後、弟子たちは失望落胆し、同時に自分たちに危険が及ぶことを恐れた
 - ある者はエルサレムを離れ、ある者は部屋に鍵をかけて息を潜めていた
- イエスは[人々が求める]メシアではなかった
 - ローマから解放するどころか、反逆者として殺されてしまった

本来ならここで全て終わる

復活したイエス

- 弟子たちの前に現れたイエス

- 閉ざされた部屋に突然現れ、十字架の釘の痕を見せられた

- 弟子たちに与えられた命令

- 「あなたがたは行って、**すべての民**をわたしの弟子にきなさい。」(マタイ28:19)

- **イエスのように復活することを信じた**

- イエスは天に帰られたが、弟子たちは命がけでイエスは<**全人類の**>メシア(キリスト)であると伝え始めた！



キリスト教の誕生

世界に広まった「キリスト教」

- 約束の地などどうでもよくなった弟子たち

- 「ユダヤ教」はユダヤ人が約束の地に留まるための信仰だったが、イエスの弟子たちは異邦人に福音を伝えるために世界に出て行った

- 約束の地にこだわり続けるユダヤ教徒

- 起源70年に国を失い、「さまよえるユダヤ人」となったが1948年に再び建国した

- 3人に1人はクリスチャン

- 現在、世界の約3人に1人はクリスチャンと言われている(日本では0.8%未満)

キリスト教はなぜ生まれたのか

- ユダヤ教を源流とするが、全く異なる教えである
 - 約束の地(パレスチナ)に住み続けるためではなく、永遠の住まいに行くための教え
- **イエスが復活しなければ生まれなかった！**
 - 現世での御利益などどうでもよくなった
 - この世の命さえ、重要でなくなった＞殉教
 - 「神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。」(使徒2章32節)

キリスト教はなぜ生まれたのか

- ユダヤ教を源流とするが、全く異なる教えである
 - 約束の地(パレスチナ)に住み続けるためではなく、永遠の住まいに行くための教え
- **イエスが復活しなければ生まれなかった！**
 - 現世での御利益などどうでもよくなった
 - この世の命さえ、重要でなくなった＞殉教
 - 「神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。」(使徒2章32節)

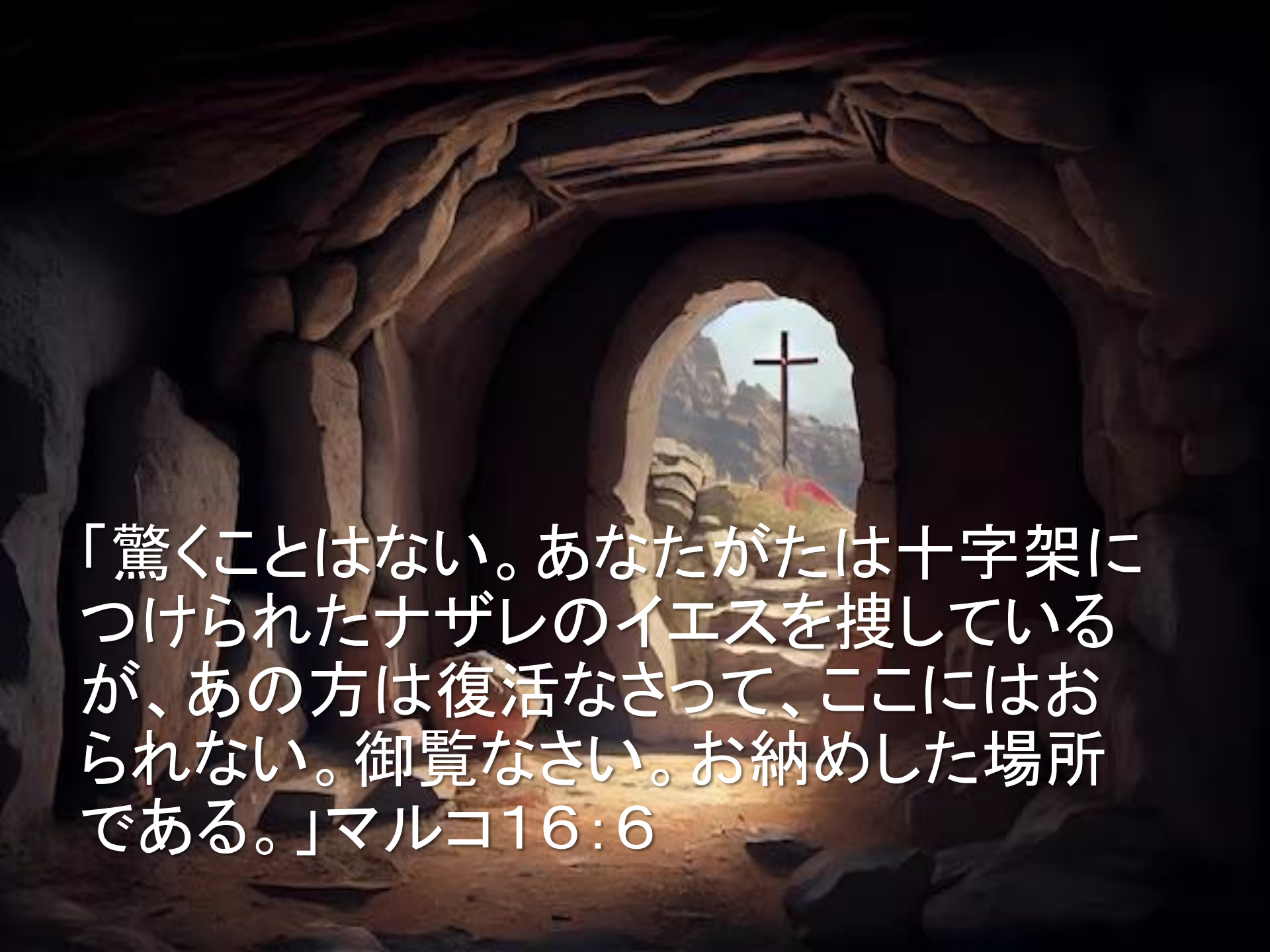
キリスト教はなぜ生まれたのか

- ユダヤ教である
- 約束なく、永

イエスの復活を目撃し
弟子たちも
復活したのである

教えで
のではな

- **イエスが復活しなければ生まれなかった！**
 - 現世での御利益などどうでもよくなった
 - この世の命さえ、重要でなくなった > 殉教
 - 「神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。」(使徒2章32節)

The image shows a dark, cavernous interior with rough, textured stone walls. A large, arched opening in the center leads to a bright, outdoor scene. In the distance, a large wooden cross stands on a hill, with a red cloth draped over its base. The background shows a hazy, mountainous landscape under a bright sky. The overall atmosphere is one of mystery and discovery.

「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。」マルコ16:6